

第四十六回帝國議會
衆議院
陪審法案委員會會議錄(速記)第二回

會議

大正十二年二月十五日午前十時五十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 鷗澤 總明君

理事 黒住 成章君

理事 清瀬 一郎君

宮崎三之助君

水野吉太郎君

横山金太郎君

出席國務大臣左ノ如シ

出席政府委員左ノ如シ

司法大臣

司法次官

司法省人事局長

司法省刑務局長

司法省行刑局長

司法書記官

岡野敬次郎君

山内確三郎君

皆川 治廣君

林 頼三郎君

山岡萬之助君

近藤 三郎君

井坂 豐光君

熊谷 直太君

高柳覺太郎君

横山勝太郎君

理事

大庭寺慶男君

純義君

作間 耕逸君

岡野敬次郎君

山内確三郎君

皆川 治廣君

林 頼三郎君

山岡萬之助君

近藤 三郎君

井坂 豐光君

熊谷 直太君

高柳覺太郎君

横山勝太郎君

理事

此點コソ却テ罪トナルベキ事實ノ有リヤ無シヤヲ決メマス

ルコトヨリモ、寧ロ容易ナノデアリマス、罪トナルベキ事實

ノ有無ハ、却テ色々ノ點カラ綜合考案シテ決メ、中々容

易ニ決斷シ難イノデアリマス、又私共ノ考テ以テ致シ

マスレバ、例ヘバ或罪ヲ犯シテ者ガアツテ、被告ノ犯シタ

ル行爲ガ、果シテ詐欺ノ罪トナルカ、又ハ脅嚇ノ罪トナルカ

ト云フコトニ付キマシテハ、法律上詐欺トハ如何ナルモノ

デアラ、又脅嚇トハ如何ナルモノデアルト云フヤウナ、一應

ノ概念素養ガ具テ居ラナケレバ、其事實ガ完全ニアツカ

否ヤヲ決メタルコトスラムツカシイモノト思ヒマス、然ル

ニ情狀ノ點ハ、被告ハ罪タルベキ事實ヲ果シテ爲シタルコ

トハ之ヲ認メラル、ケレドモ、之ニハ別ニ斯様ナ同情スベ

キ事情ガアル、刑ハ輕減スベキモノデアル、或ハ刑ノ執行ハ

猶豫スベキモノデアル、如何ニモ氣ノ毒デアリ又可哀想デ

アルト云フヤウナ問題ハ、各人ノ常識ト、又普通ノ感情トニ

訴ヘレバ、容易ニ判斷ノ付ケ得ラル、所デアリマシテ、此方

ハ事實ノ有無ノ判斷ヨリモ、寧ロ實際ニ於テ容易デアリ、或

ハ少シモムツカシクナイモノト私共ハ確信致スノデアリマ

ス、然ルニ大臣ノ御意見ハ、却テ私共ト反對ノ思召ヲ以テ、

罪タルベキ事實ノ有無ヲ定メラル、今日ノ程度デモムツ

カシクナイト思ハレケレドモ、情狀ノ點ニ付テマデ判斷

ヲ致スノハ、今日ノ國民ノ智能ノ程度ヲ以テスレバ、容易ナ

コトデナイト仰セラレタノデアル、私共ノ考トハ違フノデ

アリマス、私共ハ丁度大臣ノ御考トアベコベノ意見ヲ有ツテ

居ル次第デアリマスノミナラズ、今日我國ノ刑事裁判

獨リ我國ニ止リマセス、各國ノ刑事裁判ノ成績ニ付テ見マ

シテモ、或ル事件ガ被告ガ罪トナルベキ事實ヲ犯シタル

ヤ犯サレバ、即チ有罪ナリヤ無罪ナリヤノ判斷ヲ受ケル

事件ハ極メテ少ナイ、恐ラク百件ニ付キ十件ハアルマイト

思ヒマス、一割ニモ充タナイト思ヒマス、多クノ事件ト云フ

モノハ大抵罪トナルベキ事實ハ有ツタケレドモ、之ヲ輕ク罰

スベキカ重ク罰スベキカ、其情狀如何、或ハ刑ノ執行ヲ猶豫

スベキカ猶豫スベカラザルカ、其情狀如何ト云フコトガ爭ト

ナツテ居ル事件ノ方ガ、餘程數ガ多イノデアリマス、被告ハ

トナル人々ハ、其多クハ私ハ有罪タルコトハ免レナイケレ

ドモ、斯ク々々ノ特別ノ事情ガアツテ斯ウ云フ事ヲシタノデ

アルカラ、同ジ刑ヲ受ケルニシテモ減刑ヲシテ頂キタイ、或

ハ刑ノ執行ヲ猶豫シテ頂キタイト訴ヘル事案ノ方ガ、通例

其多キヲ占メテ居ルノデアリマス、然ルニ其問題ニ付テ陪

審ガ全然干與シナイ法制ノ下ニ本案ガ出來上ルト云フコト

ハ、折角出來タ此陪審制モ實際ニ於テ役ニ立タス、實益ノ範

圍ガ極メテ少ナイモノニナル、今日實際ニ於テ生ジマス事

件ノ十分ノ一以下ノ部分ニ於テ、纔ニ此法制ガ活用セラレ

審ガ全然干與シナイ法制ノ下ニ本案ガ出來上ルト云フコト

ハ、折角出來タ此陪審制モ實際ニ於テ役ニ立タス、實益ノ範

圍ガ極メテ少ナイモノニナル、今日實際ニ於テ生ジマス事

件ノ十分ノ一以下ノ部分ニ於テ、纔ニ此法制ガ活用セラレ

ルト云フコトデアリマシテハ、私ハ此法制ノ爲ニ最モ遺憾

ト致シマス、司法當局多年ノ御努力ニ對シテモ、甚ダ不本

意ニ存ズルノデアリマス、斯様ナ次第デアリマシテモ、大臣

ハ尙且ツ今日ノ程度デ情狀點ハ陪審ニ付スルニ足リナイ、

又付セヌデモ宜シイ、又實際ノ活用上ニ於テモ、單ニ有罪無

罪ヲ決メタル爲ニ陪審ニ掛ケレバソレ十分デアル、情狀點

ハ關係スル必要ハナイト云フコト御満足ナサルノデアリ

マセウカ、其點ヲ今一應承リタイト思ヒマス

○岡野國務大臣 只今ノ御質問ニ對シテ御答致シマス、前

ニ申シタコトヲ繰返ス外ナイノデアリマスケレドモ、陪審

制度ノ内容ヲ如何ニスベキカト云フコトニ付テハ、申スマ

デモナク色々ノ意見、色々ノ希望ガアツタコトデアラウト思

ヒマス、例ヘバ陪審制度ヲ施行スル以上ハ、是非陪審員ノ答

申ヲ以テ裁判官ヲ拘束スル力アルモノトシナケレバ、其精

神ガ貫カナイト云フヤウナ意見モ確カニアルト思ヒマス、

又其他ノ點ニ付テモ議論ガアラウト思ヒマス、併ナガラ陪

審制度ヲ其論者ノ云フ如ク徹底ニスルカドウカト云フ問

題ハ、一番大キイ問題デアラウト思ヒマス、私ノ考ヘマス所

ハ陪審制度ハ創メテ我國ニ於テ施行セントスルモノデアリ

マスカラ、所謂徹底ノ御議論ヲナサル方カラ申セバ、十分

ニ此點ニ付テ御満足ヲ得ルコトハ出來ナカラウト思フノデ

アリマス、併ナガラ創メテ行ハントスル制度デアリマスカ

ラ、先ヅ此徹底論ハ他日ニ譲ツテ置クガ適當デアラウ、必シ

モ最少限度デ立法セスケレバナラヌト考ヘマセケレドモ、

其徹底論者ノ満足ヲ得ルコトハ頗ル困難デアラウ、又我國

ノ制度トシテモ、餘程考慮スベキモノデアラウト思ヒマス

カラ、是等ノ點ニ付テマシテ、作問君ノ半バ、御意見ノヤウ

デアリマスガ、其御意ト吾々ノ考トハ大分隔リガアルノデア

リマス、私ハ前回ニモ申述ベマシタ通り、法制審議會ノ大綱

ヲ議決致シマシタ後ニ於テ、司法省ニ於テ此案ヲ立案ス

ル時、其會議ニ加ハツテ居ラスノデアリマス、定メテ作問君

ノ如キ御意見ハ、司法省ノ委員會ニ於テモ議論セラレタコト

デアラウト存ジマスガ、私ハ唯大體ノ事ヲ申述ベルニ止メ

マシテ、而モ裁判ノ實際カラ御論ジニナル——私ハ裁判ノ

實際ノ事ハ餘リ承知致シマセスノデアリマスカラ、只今ノ

一

第五類第十號 陪審法案委員會會議錄 第二回 大正十二年二月十五日

一

御尋ニ對シテハ、專ラ政府委員ヨリ御答ヲ申上ゲマシテ、斯ウ云フ議論ガアツテ、遂ニ採用スルニ至ラナカッタ云フ御說明ヲ致サセタ方ガ適當デアラウト存ジマス

○林政府委員 作問君ノ御尋ノ問題ニ付キマシテハ、大臣ヨリ只今明白ナ御答ガアリマシタノデ、附加ヘテ申上ゲルコトハ無イト考ヘマスガ、只今大臣ノ仰セニナリマシタ通り、此問題ニ付テハ司法省ノ調査委員會ニ於テモ隨分議論ガアリマシタ、其結果此法案ノ通り定メマシタ次第デアリマシテ、議論ノ詳細ヲ今日述ベル必要ハ無イト考ヘマスガ、結局此範圍ニ止メマシタ理由ハ、裁判ニ於テ一番大切デアリ又困難デアル所ノモノハ、犯罪ガ成立スル事實ガアルカ否カノ問題デアル、之ガ根本ノ問題デアリ、且ツ重大ナ問題デアル、從テ此點ハ陪審制ヲ布ク以上、之ヲ陪審ニ掛ケルコトハ當然デアル、併ナガラ刑ノ分量デアルトカ、或ハ之ヲ執行スルトカ執行ヲ猶豫スルトカ云フコトハ、罪ノ有無ノ問題ニ比スレバ、無論ハ輕イ問題デアリマス、ソレデ陪審制度ヲ布クニ付テハ、ドノ程度ニ於テ事件ノ範圍ヲ定メ、ドノ程度ニ於テハ陪審員ノ評議ニ付スルカヲ定メ、ナラス、兎ニ角或程度デ打切ラネバナラス、斯ウ云フ事カラ最モ大切デアリ、最モ困難デアル所ノ罪トナルベキ事實ノ有無ケラ評議ニ付スルニ止メルノ方宜カラウ、斯ウ云フコトニナッタ

ノデス、今一ツハ作問君ノ仰ノ通り、外國ノ立法例ニ於テハ必シモ罪トナルベキ事實ノ有無ニ限定サレテ居ラスノデアリマス、併ナガラ刑ノ量定ト云フコトニ付テ、陪審員ノ評議ノ權限ヲ認メテ居ルモノナイ、唯、特別ニ有恕スベキ原因ガアルトカ、或ハ酌量スベキ原因ガアルトカ云フヤウナコトニ付テ、陪審員ノ權限ニ委ネテ居ル立法例ガアル、寧ロソレガ多數デアリマス、併ナガラ是ハ刑法ノ立前ガ、諸外國ノ刑法ト今日ノ日本ノ刑法トハ大分違テ居リマス、御承知ノ通り外國ノ刑法ハ、刑ノ範圍ト云フモノハ比較的狭クナッテ居リマス、サウシテ裁判官ハ其範圍ニ於テ裁判セネバナラスヤウナ關係ニナッテ居テ、特別ノ事情ガアルトキニ有恕ガ出來ルト云フ立前ニナッテ居ルノガ大多數デアリマス、所ガ日本ノ現行刑法ハ刑ノ範圍ガ非常ニ廣イ、例ヘバ竊盜ニ付テハ一年以上十年以下、殺人ニ付テハ三年以上死刑マデアル、斯ウ云フコトニナッテ居リマス、其範圍ニ於テドノ邊ガ宜イカト云フコトニナルト、是ハ刑期ノ問題ニ這入ッテ來マス、其法定刑ノ範圍ヨリハモット輕イ事情ガアルカドウカ、斯ウ云フヤウナ場合ニ於テハ、外國ノ例ニ依レバ陪審員ガ評議ヲスルノデアリマスガ、日本ノ刑法ノヤウニ刑ノ範圍ガ廣クナッテ居リマス、其法定刑以下デ宜イト云フヤウナ事情ガアリトスレバ、是ハ顯著ナ事實デアリマシテ何人ガ考ヘテモ疑ノ無イヤウナ事情ノアル場合デアリマ

スカラ、之ヲ一々陪審員ノ評議ニ付スルト云フ實際上ノ必要ガ無イノデアリマス、ソレデアリマススカラ外國ノ例ニ倣フテ、若シ陪審員ガ罪トナルベキ事實以外ニモ評議ヲスルト云フコトニナリマス、結局刑期マデモ陪審ノ評議ニ付スルコトニナラスト筋ガ通ラスコトニナルト考ヘマス、サウ云フヤウナ議論ガ段々アツタ結果、此法案ノ如ク陪審ノ評議ニ付スル範圍ハ犯罪構成事實ノ有無ニ關スルコトダケデ宜イト云フコトニナリマシタ、無論色々議論ガアリマシタ次第デ、作問君ノ仰セモ、一面カラ見テ道理ノアルコト、考ヘマスガ、此法案ノ出來マシタ次第ハ、大體右申上ゲタヤウナ次第ト御承知ヲ願ヒマス

○作問委員 我モ刑ノ輕減又ハ有恕スベキ事情ト云フコトニ付テ申上ゲマシタノデ、刑期迄モ無論定メルモノト云フ趣旨デ申上ゲタノデナイト云フコトハ、御了解下サタ事デアラウト思ヒマス、サウシテ只今ノ林政府委員ノ御答ニ依レバ、本案ガ情狀マデモ、主問又ハ補問トシテ陪審ニ懸ケルコトヲシナカッタハ、即チ陪審ノ評議ノ限度ヲ單ニ罪トナルベキ事實ノ有無ニ有罪無罪ノ點ニ止メタノハ、外國トハ刑法ノ立前ガ違フ、ソレモ一ノ事情デアリ、斯ウ仰セラレマシタ、大臣ノ前同ノ御說明ハ、今日ノ國民ノ知能ノ程度デハ、未ダ其時期ニ到ラザルモノデアルト認メルコト云フ御意見デアリマシタ、是以上ハ唯、單ニ意見ノ交換ニ過ギナイコトニナリマススカラ、此質問ハ此程度デ止メマスクレドモ、多少大臣ノ御說明ト政府委員ノ御說明トハ、其理由ガ異タモノガアルト云フコトダケハ承知致シテ置キタイト思ヒマス、次ニ私ノ質問ハ、法制上ノ事ニ付テハ、他ハ施行ノ事ニ付テハ、殊ニ施行ノ準備及經費ノ問題ニ付テハ、點ダケ御尋ラシタイト思ヒマス、御許ヲ願ヒタウゴザイマス、此施行ノ準備ト經費ノ事ニ付テハ、前會ニ於テ私ハ大藏大臣ノ御出席ヲ求メテ置イタノデアリマス、大藏大臣ハ大體陪審制ノ實施ニ付テ、ドレダケノ御諒解ト御決心トヲ以テ居ラレカ、ソレヲ此機會ニ於テ伺フテ見タイト思ッテ、左様ナ御願ヲシタノデアリマスガ、若シ大臣ガ御差支デアレバ、次官デモ宜イノデアリマス、一應其點ニ付テ確カメテ置キタイト思ヒマス、ドウカ一ツ委員長カラ御要求ヲ願ヒタイ

○鶴澤委員長 十三日ニモ大藏大臣ノ出席ヲ請求致シマシタガ、貴族院ノ委員會ニ出テ居ルノデ、何時出席出來ルカ不明ダト云フコトデアリマシタ、今日更ニ申シテ置キマセウ

○作問委員 大臣ガ御差支ガアレバ、切メテ次官デモ宜イカラ出席アルヤウ御取計ヲ願ヒタイ

○鶴澤委員長 承知致シマシタ

○作問委員 而シテ殘ラ法制上ノ質問ニ付テハ、是ハ山内

政府委員デモ林政府委員デモ宜イガ、一ツ山内政府委員ニ特ニ御尋ラシテ置キタイノデアリマス、ソレハ斯ウ云フ問題デアリマス、少シク法案ノ見解トシテハ可笑シイ問題デアリマス、是ハ外國ニハ屢々例ノアツタ事ト聞イテ居リマス、我國ニ若シ斯ウ云フ例ガ起ラドウデアリマセウカ、例ヘバ陪審ニ懸ケラレタ事案ガ、有罪デアルトハ爭ハ

レヌ、其罪ヲ犯シタ事實ガアツタト云フコトハ陪審員ノ認メル所デアルガ、如何ニモ社會公共ノ爲メ同情スベキ問題デアル、如何ニモ氣ノ毒ニ堪ヘ難イ問題デアル、可笑シナ例デアリマス、ルガ、例ヘバ假ニ忠臣藏ノ大石良雄ガ被告トナリ、或ハ佐倉宗五郎ガ被告トナッタト云フヤウナ場合ニ、陪審員ハ自分ノ感情ノ激發セル所ニ訴ヘテ——自分ノ感激ニ訴ヘテ、強テ其被告ヲ擁護センガ爲、罪ヲ犯シタル事實ヲ認メズト、斯様ニ答申ラシタト致シマシタ、サウ云フ場合ニハ多クハ冷靜ナル裁判官ニ於テ其答申ハ採擇ニハ相成リマス、マ

イ、其結果再ビ他ノ更新セラレタ陪審ニ諮問セラル、コトニナッタ、ソレハ當リ前ノ筋道デゴザイマス、ルガ、若シ裁判所ニ於テモ、人間ノ至情ヲ以テ其陪審ヲ是ナリトシテ採用シタト假定致シマシタ時、其裁判ハ無論司法官ノ獨立ナル權限地位ニ依ッテ致スベキ裁判デアリマス、司法行政ノ當局者、如何ナル最高ノ當局者ト雖モ、之ヲ左右スルコトノ出來ナイノハ勿論デアリマス、其時ニハ矢張其裁判ハ適正ノモノデアラ、適法有効ノモノデアルト御認メ下サレマス、ルカドウカ、是ハ私等ノ實ハ陪審ノ効用ト云フモノハ、其處ニ至ッテ最モ其極致ヲ發揮スルモノデアラウト思ヒマス、殺人罪ノ場合ニ親ノ敵ヲ平素親孝行ノ子供ガ討ツタ、此場合ニ於キマシテ、陪審ガ非常ナ感激ニ訴ヘテ其事實ヲ否定シタ、裁判官モ人間最高ノ感情ヲ發露サレマシタ、普通ノ裁判官トシテノ判斷ヲ離レテ、假ニ之ヲ其陪審ノ評議ヲ採用サレタ、此場合ノ裁判ヲアナタ方ハ何ト御覽ナサレマス、將來第一ニアルベキコト、シテ、私ハ一應此機會ニ於キマシテ伺フテ置キタイ

○山内政府委員 趣旨ヲ詳シク的確ニ私ハ了解シテ居ラスト思ヒマスガ、併ナガラ若シ陪審ノ意見ト裁判官ノ意見ト一致シテ、事實ヲ認定シタ場合、司法次官ハ何ト見ルカ、ソレガ社會ノ事情トシテ頗ル合理デアルカ、司法次官ハ何ト見ルカ……

○作問委員 司法次官デアリマセヌ、司法行政ノ最高當局者ハソレヲ何ト御覽ナサレマス、カ

○山内政府委員 最高當局者トシテ第二番目——ソレデ私ハ司法次官トシテ裁判ヲ批評スルコトヲ致サナイ積リデアリマス

○作問委員 分リマシタ、批評スルコトヲナサレヌ、苟モ行

政監督ノ最高ノ方トシテ、其裁判ニ付テ取テ批評ヲ試ミヌト言ハレマスカラニハ、サウ云フ裁判モ亦アリ得ルコトドアッテモ、何等無効ノ司法裁判ノ上ニ於テ干渉スベキモノデナイコトハ勿論デアリマスケレドモ、アッテモ之ヲ取テ非ナリトセヌト云フ御意見ト承ッテ置キマスガ、ソレデ宜シウゴザイマスカ

○山内府委員 ソレデ宜イカモ知レマセヌガ、實ハ此司法行政ハ勿論裁判ニ干渉シ、個々ノ事案ノ裁判ヲ批判スルコトハセナイ積リデアリマス、併ナガラ合理的ニト云フテ置イタ、極メテ非常識ナ仕事ヲシタ時ニ、アノ判事ハ非常識ナ事ヲスルト云フ位ノコトハ考ヘマス

○岡野國務大臣 先刻作問君ヨリ此陪審制度施行ニ付テノ豫算ノ計畫ニ付テ、大藏大臣或ハ大藏當局ノ出席ヲ求メルト云フ御話ガアリマス、ソレハ委員長ヨリ御請求ニナッタナラバ、必ズ出席セラル、デアラウト思ヒマスガ、前回私ヨリ此陪審法ノ實施、並其實施準備ニ關スル所ノ計畫ノ大要ヲ申上ゲタデアリマス、ソレハ只今作問君ノ御質問中ニモアリ、且ツ能ク御了解下スツコト、思ウテ居ルノデアリマスガ、繰返シテ申上ゲマスレバ、大正十二年度ヨリ大正十六年度ニ至ル迄、歐米ニ於ケル陪審制度運用ノ實況並設備等視察ノ爲、毎年數名ヲ海外ニ派遣シ、大正十三年度ヨリ大正十六年度ニ至ル四箇年間ニ於テ、陪審法廷及之ニ附屬スル建物並陪審員ノ宿舍ノ建築、其他ノ實施準備ヲ整ヘ、大正十六年度ヨリ陪審法ノ一部ヲ實施シ、大正十七年度ヨリ法律全部ヲ實施セント欲ス、斯ウ云フ計畫ニ定メテ居ルノデアリマス、而シテ此陪審法ノ施行準備トシテ如何ナルモノヲ要スルカト申セバ、大要ハ右申上ゲタ通りデアリマスガ、外國ノ陪審裁判觀察ニ關スル所ノ經費、司法本省ニ職員ヲ臨時増加スルコトニ關スル經費、此陪審法ヲ施行スルニ付テ、蓋シ準備委員會ヲ設置スルノ必要ガアルデアラウト思ヒマスノデ之ガ經費、ソレカラ前同ニ申述ベマシタル如ク、此陪審制度ヲ一タビ施行政シマスルニ付キマシテハ、他日ニ悔ヲ貽スコトノナイヤウニ、十分ニ其陪審制度ノ趣旨ヲ徹底セシムルコトノ必要ガアラウト考ヘマシテ、講演並印刷物ニ要スル經費、ソレカラ此前提申上ゲマシタ司法省臨時増員ニ關スル經費、判事及檢察ノ臨時増員スルコトガ必要デアリマスノデ此經費、ソレカラ地方裁判所長、地方裁判所廳舍増築、及審判員宿舍新營ニ關スル經費、陪審員候補者選定事務監督ニ要スル器具設備費、陪審部七十一ノ設置ニ要スル器具設備費、斯ウ云フモノガ臨時部ニ於テ必要ナル經費ト考ヘテ居ルノデアリマス、經常部ニ於テ必要ナル陪審員候補者選定事務監督ニ要スル經費、陪審部七十一部ノ設置ニ要スル經費、ソレダケデアリマス、而シテ此

計畫ノ大要ニ付キマシテハ、是ハ既ニ政府ニ於キマシテモ其協議ヲ纏メテ居ルノデアリマス、大藏當局モ此計畫ノ大要ハ認メテ居ルノデアリマス、併シナガラ只今陪審法施行準備費ニ付テ、經費ノ額迄未ダ十分ニ今日確定スルニ至ラデ居ラスノデアリマス、計畫ノ大要ハ既ニ認メラレテ居ルノデアリマス、多少此經費ハ多過ルトカ、或ハ之ガ爲ニ施行準備トシテハ必要ノ無イト云フヤウナコトモ、或ハ大藏當局ノ意見ガアルカ知リマセヌガ、經費ノ額ニ付キマシテハ、他日ニ於テ司法當局ト財政當局ト交渉ヲ重ネル必要ガアルト思ヒマス、併ナガラ計畫ノ大要ニ付キマシテハ、既ニ財政當局ノ了解ヲ得テ居ルノデアリマスカラ、一應私ヨリ是ダケヲ申上ゲデ置キマス、他日財政當局ノ出席ヲ待テ尙御尋ネ下サイ御答辯モ致スデアラウト思ヒマスガ、蓋シ只今私が申上ゲマシタヨリ以上ノ説明ハ、今日確定ノニハ申上ゲ兼ネルデアラウト思ヒマス

○作問委員 大臣ノ御説明ハ、洵ニ御懇篤ヲ極メテ居リマシテ、感謝ニ堪ヘナイノデアリマスケレドモ、何時モ私がマダ御尋ナシナイ前カラ御説明ガアルノデ、先手ヲ打タレバウナ氣持ガ致シマス、大臣ノ極メテ御上手ナ所カモ知レマセヌケレドモ、質問ノ順序ガ狂ッテ、却テ有難迷惑デアリマス、ドウカ私ノ質問ハ是デ終リマスケレドモ、一々御尋ヲ致シマスカラ、質問ヲ待テ御答ヲ願ヒタイノデアリマス、先手々々ト來ラレテハ、此方ハ質問ノ腰ガ折レテ困リマス、ソレデ最後ニ……

○鶴澤委員長 一寸申シマスガ、大藏大臣ト大藏次官ハ今貴族院ノ本會議中デ、一寸差繰ガ出來ナイ
○作問委員 次官ハ來ラレサウナモノデアリマス
○鶴澤委員長 此次デ宜イデセウ、丁度豫算ノ會議ノヤウデスカラ

○作問委員 ソレデ私ハ最後ニ山内府委員ニ對シテ今一度先キ御答ニ付テ續イテ御確ネラシテ置キタイノデアリマス、私が先刻申シタ其様ナ事件ガアリ裁判ガアッテモ、司法ノ最高當局トシテハ何等個々ノ事件ニ干渉モシナイ、意見モ述ベスト仰セラレマシタガ、ソレハ裁判官ハ獨立ノ地位ト職權ヲ持ッテ、終身官タルコトヲ保障セラレマス以上ハ、司法當局ハ個々ノ事件ニ付テ、何等裁判ニ干渉スベキモノデモナイ、又セラレモセヌト云フコトハ、此處ノ委員會ノ委員ハ大抵皆ナ支人デアリマスカラ、ソレ位ノ事ハ御答辯ナクシテモ分リ切ツタ話デアリマスガ、唯、サウ云フ問題ガ起リマシタトキニ、司法ノ行政上ノ當局者トシテ、其事案ヲ何ト御覽ナサレカ、其御觀察如何ハ御觀察ハアッテ然ルベキモノデアアル、何デソレニ付テ御意見ヲ下サレ、御命令ヲ發セラレルト云フ譯デアリマセヌ、ソレヲ何ト御覽ナ

サレマスカ、其御感想ヲ——假定ノ問題デアリマスケレドモ、伺ッテ置キマスレバ、私ハ陪審應用ノ極致ニ達シマシタル事案ヲ聊カ考ヘテ置キタイト思フノデアリマス、ソレガ西洋ニハ現在既ニ事實トシテ現ハレテ居ル、又我國ニ於テモ陪審法施行後遠キ將來ニ於テハ、必ズサウ云フ事實モ出現セラレルトコトガ絶無デハナイト思ヒマス、其處ニ陪審本來ノ性質ガ籠ッテ居ルノデハナイカト云フコトニ付テ、ソレノ御觀察トシテ伺ッテ置キタイ

○山内府委員 私人假定ノ下ニ、而モソレハ細カイ事實事情ト云フヤウナモノガ色々此ニ具體的ニ現レ、バ、批評スルコトモ出來マス、是ハ個人トシテ批評スルノデアアルカ、司法行政官トシテ批評スルノデアアルカハ別トシテ、兎ニ角批評ハ出來ル、併ナガラ唯、二三言ヲ以テ茲ニ假定ノ例ヲ持ッテ來ラレテ、此事案、即チ假定ノ事案ニドウ云フ感想ヲ持ッテ居ルカト言ハレテモ、ドウモ一寸私ハ批評スルニ餘程具體案ノヤウニハ往カナイノデアリマス、ソレデアルカラシテ、假定ノ事案デハドウスルカト云フコトニナルト、ソレガ一つノ前提ニオッテ甚ダ迷フコトガ出來ラダラウト思ヒマス、サウ云フ次第デアリマスカラ、具體案ガアレバ、左モナケレバ親ノ仇討ガドウダカスウダカ云フヤウナコトダケデハ、ドウ云フ感想ヲ持ッカト云フコトハ一寸申上ゲルコトガ出來ナイノデアリマス

○作問委員 ソレデハマア宜シウゴザイマス、ソレデハ私ハ施行上ノ經費ノ支出ニ付テ、大藏省ガ全ク司法省ノ要求通りニ、此整理緊縮ノ引續キマスル數年間、誠意ヲ以テ且ツ好意ヲ以テ十分ニ支出サレテ、一日モ速ニ陪審法制ノ實現スルヤウニ致シタイモノデアアルガ、其御決心如何ト云フコトヲ大藏當局ニ確メテ見タイト思フテ居、タノデアリマスケレドモ、御出席ガナケレバ已ムヲ得マセヌ、是ハ留保シテ置キマシテ、只今ノ所是デ質問ヲ打切りマス

○黒住委員 陪審制度ノ確立ハ、我國司法界ノ一大覺醒デゴザイマス、而シテ國民ガ長キ間之ヲ熱望致シテ居、タ、今マデ朝野法曹ガ御研究ニ相成リマシタル點ハ、多ト致ス所デゴザイマス、サウシテ此成案ガ成立チマスニ付テ、先日大臣カラ御説明ガアリマシタ如ク、色々陪審制度ニハ弊害モ歐米諸國ニアルト聞及シデ居リマスノデ、深ク此點ニ御留意ヲ遊バサレテ、徒ラニ外國法ニ模倣ラセヌ、即チ帝國憲法ニ顧ミテ、主トシテ國民風俗ヲ考慮シテ御拵ヘニナツタト云フ事ヲ頗ル喜ブ者デアリマス、唯、我國司法界ノ實情ニ徴シマシテ、私共ノ最モ必要ナリト從來信ジテ居リマシタ此起訴陪審、即チ大陪審ノ制度ヲ御採用ニナラナカッタノデアリマス、此理由ヲ一ツ大臣ニ詳細ニ伺ヒタイト思フノデアリマス、尤モ此點ニ付テハ、前議會ニ委員ト政府委員トノ間ニ質問應答ガアリ

マシタガ、政府ノ語ル所極メテ簡單デゴザイマス、我國ノ今日ノ場合、採用スベキモノニアラズ、且ツ檢事ノ方ハ、監督權其他ノ方法ニ依リ、改善ノ途ガアルト言ハレテ居ルニ過ギナイノデゴザイマス、甚ダ簡ニ過ギマシテ、私共ノ痛切ニ必要ヲ感じテ居ル起訴陪審ヲ排斥シテ理由ヲ伺フコトガ出来ナカッタ、ソレ故ニ重テ大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス、諸君モ御承知ノ如ク、我國ニ於テハ今日民衆ノ平カナラザル聲ヲ聞キマス、判決ヨリハ寧ろ檢事及司法警察官ニ對スル方ガ多イノハ事實デゴザイマス、司法權ノ威重ト國民ノ悅服ヲ主眼トシタル司法制度ノ改革ニ、此弊ヲ最モ矯メ得ルト信ズベキ起訴陪審ヲ排斥セラレタト云フコトハ頗ル解シ難イ所デアリマス、實際ニ於テ從來豫審公判ニ至リテ、免訴無罪ニ相成リマス不當ノ起訴ハ、數ガ少クナイト云フコトハ公知ノ事實デゴザイマス、又新刑事訴訟法ニ於テ、檢事及司法警察官ノ權限ガ著シク擴張サレテ居リマス、今日ニハ、一層此感ガ私ハ深イノデゴザイマス、頗ル私ハ此點ヲ憂慮致シテ居ル、我ガ國民性ハ、探偵的ニ人ノ行為ヲ搜查ハ不慣デゴザイマス、起訴陪審ヲ致シマスルト云フト日本ノ國民性ニ反スル一ツノ事柄ニ慣レシメネバナラヌ事實アルコトハ私ハ諒ト致スノデゴザイマス、官民協力の秩序ノ維持ガ陪審ノ根本精神デアリマス、餘儀ナイ事ト思フノデアリマス、誤テ一度起訴セラレテ、被告人トシテ法廷ニ出デマシテ、縲紲ノ辱ヲ受クル身ニナリマス、縱令無罪ノ判決ヲ受ケマシテモ、其名譽上財産上受クル所ノ損害ハ、容易ニ回復ガ付カス、況ヤ長キニ亘リマシテ拘禁セラレマシタ者ニ於テヤデゴザイマス、即チ精神上物質上非常ナル打撃デゴザイマシテ、人ニ依リ、職業地位ニ依リマシテハ、再ビ起ツ能ハザルニ至ルコトヲ私共鈔カラズ目撃致シテ居リマス、又公判陪審ヲ採用シテ、起訴陪審ヲ御排斥ニナツタ此事ニ付キマシテハ、今日ノ此司法制度ニ誤解ガ生ジハシナイカト云フコトヲ私ハ憂フル、即チ從來ノ公判處分ニ於テハ、大ニ改善スベキ所ガアルガ、檢事處分ニ付テハ、其改ムベキ何物モナイデハナイカト云フガ如キ誤解ガ生ゼンカト云フコトヲ憂フルノデアリマス、檢事判事ノ優劣論ト云フモノハ、能ク俗論ガ闊ハサレテ居ルノデゴザイマス、勿論政府當局ノ御苦心ノ結果、近時ニ至リマシテハ其職司ニ在ル者ガ段々ト優秀ノ士ガ多クナリマシテ、此私ノ申シマスル事ハ杞憂カモ知レマセヌ、併ナガラ稀ニ其事ナキヲ保シ難イノデゴザイマス、又搜查處分ハ極ク秘密裡ニ行ハル、モノデアルノミナラズ、本法ニモ第七條ニ依リマス、公訴事實ヲ認メタ時ニハ、陪審ノ評議ニ付スルコトハ出来ヌコトニナツテ居リマス、即チ自白者ハ陪審ニ付サヌ規定デゴザイマス、縱令搜查中ニ爲シタル自白ハ、公判ニ

於キマシテ何等證據價值ガナイトシマシテモ、或ハ自白ヲ強ヒル狀勢ヲ作ル處ガナイカト云フコトヲ憂慮スル一點デゴザイマス、甚ダ私ハ此點ニ向テ心配ヲ致シテ居ル、仍テ帝國議會ノ此席ニ於キマシテ、司法大臣ヨリ本法案ガ起訴陪審ヲ採用セザリシ理由ヲ詳細ニ御論述ニナルト云フコトハ、最モ大切ナル制度ヲ立ツルニ對シマシテ、極メテ肝要デゴザイマス、又全國執法ノ職司ニ在ル者ニ對シマシテ、彼ノ上下監督關係ニ依テ發セラレマス訓示ヨリ、大ニ權威ガアルト思フノデゴザイマス、即チ議會ニ於ケル大臣ノ聲明ハ、申ス迄モナク國民ヲ透シテノ力アル訓示トモ解スルコトガ出来ル、即チ民衆監督ノ力アル一ツノ實モ舉リハシナイカト云フコトヲ考ヘルノデゴザイマス、サウ致シマスレバ起訴陪審ヲ御採用ニナラナカッタ其缺點ヲ、又大臣ノ聲明ニ依テ補充フコトモ出来ハシナイカト云フコトヲ私ハ考ヘルノデゴザイマス、此意味ニ於キマシテ、先ヅ起訴陪審ヲ採用セザリシ理由、之ヲ詳細ニ御述ベテ願ヒマス、尙ホ將來實施ノ上ニ於テハ、公判陪審ヨリ起訴陪審ニ擴張セラル、御所存デアルカ、此點ヲ司法大臣ヨリ伺ヒマス

○岡野國務大臣 只今ノ黒住君ノ御質問ノ中ニ御述べニナリマシタ事ニ付テ、私御同感ノ點モ鈔カラズアルノデゴザイマス、併シナガラ此法案ニ於キマシテ、起訴陪審ナルモノヲ採ラザリシ理由ニ付キマシテハ、第一ニ申述ベタイコトハ、此起訴不起訴ト云フ問題ハ、是ハ申ス迄モナク司法大臣ノ監督ニ屬シテ居ル事柄デアリマシテ、所謂上命下從ノ原則ガ此場合ニ適用サレテ居ルノデゴザイマス、裁判ニ至リマシテハ、是ハ裁判所ガ獨立ノ權能ニ基イテ獨立ノ裁判ヲ致スノデアリマス、司法大臣ト致シテ固ヨリ其裁判ニ關與スベカラザルコトハ明瞭ナ事デアリマス、此二者ノ間ニ於キマシテ大ニ趣ヲ異ニスル所ガアルノデアリマス、司法大臣ノ職ニアル者ガ、司法權ノ運用ニ付キマシテハ、公平嚴正ヲ遵奉致シマシテ、此監督權ヲ十分ニ發揚致シマスルナラバ、之ニ依テ起訴不起訴ノ問題ハ適當ニ解決セララル、モノデナケレバナラヌモノデアリマス、御承知ノ通り此問題ニ付キマシテハ、黒住君ノ御質問中ニモアリマシタ如ク、此起訴不起訴ノ問題ニ付キマシテ、隨分世間ノ議論ヲ招イタ事例ハ相當ニアルヤウデゴザイマス、併ナガラ司法當局モ年來此民間ノ議論ニ十分ノ考慮ヲ拂ヒマシテ、慎重ニ此問題ヲ取扱フコトニ致シタノデゴザイマス、幸ニシテ此數年間、所謂名付ケテ人權蹂躪ト稱スル聲ヲ聞カザルニ至ラタコトハ、寔ニ司法權ノ爲ニ欣ブベキ事ト私共ニ悅ンデ居ル次第デアリマス、又黒住君ノ質問演說中ニモゴザイマシタ如ク、常ニ此司法官ノ會同アル毎ニ、當時ノ司法大臣ハ、必ズ司法權ノ運用ニ付テハ公平嚴正ヲ旨トスベキコトヲ訓示致

サザル場合ハ、殆ド無イト申上ゲテモ宜シイノデアリマス、又司法官ノ選定ニ付キマシテモ、少カラズ十分ノ注意ヲ拂ヒ來リマシテ、今日ニ於キマシテハ幸ニ此點ニ付テハ不審ヲ抱ケ者モ無イヤウニ至ラタコト云フコトハ、甚ダ國家ノ爲ニ慶スベキ事ト思フノデアリマス、次ニ此起訴不起訴ノ問題ハ、政府ノ只今ノ見解ヲ申上ゲマスレバ、是ハ專門家ノ見ル所、所謂專門家ノ見ル所ニ委スルガ適當デアラウト思フ、殊ニ此問題ハ中々解決ニ困難ナ問題デアアルノデアリマス、所謂司法官ノ見ル所ニ一任スルガ、却テ此公平ヲ期スル所デアアラウ、斯ウ云フヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ次ニ申上ゲタイ事ハ、是ハ黒住君モ御承知ノ如クニ、所謂起訴陪審ナルモノハ英米ニハアルノデアリマス、併ナガラ大陸ニ於キマシテ、此起訴陪審ヲ認メテ居ルモノハ無イノデアリマス、又佛蘭西ニ於キマシテハ、一タビ起訴陪審ノ制度ヲ採用致シタノデアリマス、其後弊害ニ鑑ミマス、是ハ廢止シタト云フコトヲ私ハ承ッテ居ルノデアリマス、又先刻モ申述ベマシタ如ク、或ハ陪審制度ヲ施行スル以上ハ、此起訴陪審ヲ認メナケレバ、陪審制度ノ效用ノ半ハ失フモノデアアルト云フヤウナ御議論モ私ハアラウト思フノデアリマス、是ハ矢張一種ノ見解デアリマス、先刻モ申述ベマシタ如ク、政府ト致シマシテハ、只今ハ右申述ベマシタ理由ニ依リマシテ、今日ニ於テ起訴陪審ヲ適當デナイト考ヘテ居ルノデアリマス、尙ホ將來ニ於テ起訴陪審ヲ認ムルカドウカ、陪審ノ趣旨ヲ擴大シテ起訴陪審ヲ認ムルカドウカ、是ハ或ハサウ云フコトニ立至ルカモ分リマセヌガ、併シ今日只今ノ考ヲ以テ致シマシテハ、起訴陪審ヲ認メル必要ハナイト考ヘテ居リマス、他日必要力起リマスレバ、或ハ法律ヲ改正スルコトニナルカモ分リマセヌガ、只今ヨリ法律ヲ改正スルコトヲ豫期シテ居ルト云フコトハ申上ゲ兼ネルノデアリマス、左様ニ御承知願ヒタイト思ヒマス、而シテ尙ホ此起訴陪審ノ專門的ノ事ニ至リマシテハ、寧ろ政府委員ヨリ御答辯ヲ致サシムル方ガ、或ハ適當デアラウト思ヒマス、大體ニ於キマシテ、此法案ニ起訴陪審ヲ認メザリシ理由タケテ私ハ一言申上ゲテ置キタイノデアリマス

○林政府委員 此法案ニ於キマシテ起訴陪審ヲ認メマセヌ理由ハ、只今大臣カラ詳細ニ御説明ガアリマシテ、是デ盡キテ居ルノデアリマス、此法案ガ成立シマシタ經過ヲ少シク述ベマシタナラバ、一層御諒解ニ達スルコト、考ヘマスカラシテ、起訴陪審ヲ認ムルニ至ラナカッタ經過ヲ大體申上ゲテ見タイト考ヘマス、政府ガ陪審制度ノ樹立ヲ必要ト認メマシテ、法制審議會ニ諮問ヲ致シマシタ、法制審議會ニ於テ隨分鄭重ナル審理考ヲ遂ゲマシテ、其結果綱領ヲ具シ

テ答申シタノデアリマスガ、法制審議會ニ於テモ、起訴陪審
ト云フモノハ認メナイ方ガ宜シト云フ、斯ウ云フコトヲ
議決致シマシテ、其趣意ニ於テ政府ニ答申ラ致シテ居ルノデ
アリマス、ソコデ法制審議會ノ綱領ヲ本トシテ、司法省ノ調
査委員會ニ於テ更ニ慎重ニ考究ラ致シマシタガ、其場合ニ
私ハ委員トシテ關係ヲ致シテ居ルノデアリマスカラ、調査
委員會ニ於テ論ノ大體ヲ申上ゲヤウト思フ、調査委員會
ニ於テ段々取調ベマシタガ、先程大臣カラ仰セニナリマシ
タ通り、外國ノ立法ヲ調ベテ見マス、英吉利及亞米加ニ於
テハ認メテ居リマス、歐羅巴大陸ニ於テハ、何レノ
國ニ於テモハ認メテ居リマセヌ、先程大臣ノ御説明ニモ
アリマシタ通り、佛蘭西ニ於テハ一時陪審制度ヲ輸入シタ
時ニハ認メタノデアリマスガ、數年ナラズシテ其弊ノ甚シ
イノニ驚イテ之ヲ廢メテ、爾來起訴陪審ヲ設ケヤウト云フ
說ハ絶對ニ起ッテ居ラス、佛蘭西ノミナラス、歐羅巴諸國ニ
於テ私ノ知ルニ於テハ、起訴陪審制度ヲ立テヤウト云フ論
ハ、今日ニ於テハ全ク無イ、ソレカラ又英吉利ニ於テモ、起
訴陪審ニ付テハ議論ガ非常ニアリマス、起訴陪審ヲ廢メヤ
ウト云フ論モ大分アリマス、現ニ歐羅巴ノ大戰中ニ於テハ、
起訴陪審制度ハ廢メマシタ、恐ラハ戰爭ガ了ツタ後モ引續
キ廢メラデアラウト云フコトヲ識者ハ申シテ居タノデア
リマス、併シ今迄ノ古イ沿革、ソレカラ英吉利ハ御承知ノ通
リ檢事ノ制度ガ大陸ヤ日本ノヤウニ無イノデアリマスカラ、
起訴陪審ヲ廢メマス、訴追機關ヲ別ニ作ルカ、色々ノ關係
ノ爲ニ起訴陪審ヲ全然廢メルト云フコトハ實際上不可能
デアルト云フコトデ矢張一昨年カラ復活ハ致シテ居リマス、
併シナガラ起訴陪審制度ハ弊ガアル、宜シクナイト云フ論
ハ、識者ノ間ニ於テ盛ニ唱ヘラレテ居ル次第アリマス、ソ
レガマア大體起訴陪審ニ付テハ歐羅巴ニ於ケル狀況デアリ
マス、ソレ等ノ點ニ付テモ段々ニ調ベテ見タ次第デアリマ
ス、ソレデ我國ノ陪審制度ヲ立テルトコトニナリマシテ、我國
ニ於テハドウデアルト云フヤウナ事ニ付テ段々ニ考究ラシ
タノデアリマスガ、ドウモ起訴陪審ノ制度ヲ採ルト云フコト
ハ、適當デナイト云フコトニ、殆ンド是ハ一人モ異論ガ無カ
タヤウナ次第デアリマス、理由ハ銘々ニ依ッテ無論違フノデア
リマスガ、凡ソ大多數ノ人ノ認メタ論ハ、第一ニハ公判陪審
ノ方ハ、檢事ガ起訴シタ事實即チ公訴事實ガアルカ無イカ
ト云フコト事ヲ證據ニ基ク確信ニ依ッテ判斷スレバ宜シイ、
證據調べノ結果、事實アリト確信ラ生ズレバ肯定ノ答申ラ
シ、確信ヲ生ズルニ至ラナケレバ否定ノ答申ラスレバ宜シ
イ、是ハ常識ノアル者ナラバ何人デモ出來マス事柄デアリ
マス、所ガ起訴不起訴ノ方ハ、ソレトハ餘程趣ヲ異ニシマシ
テ、事實ガアルト云フ確信ニ依ッテヤルノデハナイ、要スル

ニ嫌疑ノ程度ニ依ッテ起訴スルノデアリマス、如何ナル嫌
疑ノ程度ガアレバ起訴シテモ宜シイカト云フコトハ、是ハ
餘程困難ノ問題デ、此程度ヲ極メルト云フコトハ、素人デハ
實際ニ於テ間違ヒ易イノデアリマス、是ハドウシテモ此方
面ニ付テ經驗ノアル知識ノアル人ガ判斷シナイト、事ガ
間違フ、其處ニ起訴陪審ノ弊ト云フモノガ澤山アルト云フ
コトハ、歐羅巴ノ實際ガ證明シテ居ル、ソコデ公判陪審ノ方
ハ宜シイトシテモ、起訴陪審ノ方ハイカス、素人ニ之ヲ委セ
ルト云フコトハ不當デアアル、殊ニ日本ノ今日ニ於テ困難デ
アルト云フコトニ、衆論ガ此點ニ於テ一致イタシテ居リマ
シタ、ソレカラ第一ニハ起訴不起訴ニ付キマシテ、近世ノ立
法ノ傾向、是ハ私ヨリ申ス迄モ無イノデアリマスガ、合法主
義ヲ廢シテ便宜主義ヲ採ル、是ハ近來ノ刑事訴訟立法ノ趨
勢デアリマス、日本ノ新刑事訴訟法即チ昨年ノ新刑事訴訟
法ニ於テハ、便宜主義ヲ採ルト云フコトヲ法文ニ宣言シタ
位ノ次第デアリマス、サウ云フ次第デアリマシテ、起訴不起
訴ヲ判斷スルコトハ、唯ハ犯罪事實ガアツタカドウカト云
フコトヲ判斷スルコトハ、又刑事政策上ノ施設ニ通曉シテ居ル者
デナケレバ、適當ニ判斷スルコトハ出來マセヌ、是ハドウシ
テモ其方面ニ知識經驗ノアル者デナケレバ正當ノ判斷ハ出
來ナイ、從テ素人ニ起訴不起訴ノ判斷ヲ任セルト云フコト
ハ、此方カラ申シテ甚ダ不都合ナ結果ヲ生ズル、斯ウ云フ
論モ多數ノ委員ガ殆ド一致シタ所デアリマシテ、要スルニ
色々ノ理由ガ人ニ依ッテアリマスガ、以上述べタ二ツノ理由
ガ最モ強イ理由デアリマシテ、且ツ總テノ同意ヲ得タ所ノ
理由デアリマス、其外審議ノ際ニ色々現ハレタ論ノ中デ、中
上デテ置キタイ事柄ハ、陪審制度ヲ布ク所ノ理由ニ關スル
ノデアリマスガ、丁度或ル時代ニ於テ檢事ニ人權蹂躪ノ事
實ガアツタト云フコトデ、世間デ相當ノ非難ガアリマシタ、
實際ハ世間ノ非難程ノ事實ハナカッタノデアリマス、併シ世
間ニ於テハ相當ニ之ヲ信ジタ人モアリマス、サウ云フヤウ
ナ人權蹂躪ト云フヤウナ事柄ガ、陪審制度ヲ布ク土臺ニナ
テ、ソレヲ矯メル爲ニ制度ヲ布クト云フコトデアリマスレ
バ、起訴陪審ヲ設ケナケレバナラズト云フコトモ、其處ニ多
少ノ聯絡ハ生ジテ來ルノデアリマスガ、併シ日本ニ於テ此
制度ヲ布カウト云フ理由ハ、大臣ノ御説明モアリマシタ通
リ、斯ウ云フ所カラ參ッテ居ルノデハナイ、從ッテ檢事ノ人權
蹂躪ノ事實ガアルカラ、之ヲ矯メルニハ起訴陪審ガ必要デ
アルト云フ論ハ、土臺ニ於テ違フコトニナリマス、假リニ其
點ハ人權蹂躪ト云フ事實ガアツテ、之ヲ矯メル爲ニ陪審制度
ヲ布クト云フコトガ一ツノ理由デアアルモノト致シマシテ
モ、ソレデモ矢張起訴陪審ヲ置クト云フ理由ニハナツテ來マ

セヌ、世間ニ人權蹂躪ノ聲ノアリマシタノハ、檢事ノ調べ方
ガ惡ルイ、調べルトキニ無法ナ事ヲスル、或ハ拘留シナクト
モ宜イ者ヲ拘留スルト云フヤウナ點デアリマシタ、起訴不
起訴ノ判斷ガ誤ッテ、起訴スベカラザル者ヲ起訴シ、起訴ス
ベキ者ヲ起訴シナカッタト云フ點ニ付テ、人權蹂躪ノ非難ト
云フモノハナイノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ、人
權蹂躪ト云フコトヲ土臺ト致シマシタ所ガ、起訴陪審ガ必
要デアルト云フコトノ結論ガ生ジテ來マセヌ、其他種々ノ
點モ段々ニ調査委員會ニ於テハ追究致シマシタノデアリマ
シテ、其結果ガ此法案ニ現ハレテ來マシタ次第デアリマス、
大體右様ナ次第デアリマスカラ、御諒解ヲ……
○黒住委員 大臣及政府委員ノ御説明デ、經過及御趣意ノ
存スル所ハ大體ハ諒解致シマシタ、又如何ニモ我國民ノ精
神ト致シマシテ、捜査ノ一人ノ私行ヲ捜査スルト云フヤ
ウナコト、若クハ疑ハ掛ケル、疑ヲ持ッテ人ヲ待過スルト云
フコトハ極メテ不得手デ、又是ハ同時ニ美點デゴザイマス、
此點ハ如何ニモ私モ左様ニ考ヘテ居ルノデアリマスガ、私
ノ起訴陪審ヲ何故御採用ニナラナカッタカト云フコトヲ申
シマスルノハ、世ニ所謂檢事ノ人權蹂躪ト斯ウ云フ簡單ナ
事ノミデハナイ、實ニモ申シマシタル如ク、豫審若クハ公判
ニ至リマシテ、免訴又ハ無罪ノ處分ヲ受ケテ居ル者ノ其數
ノ多イコトハ、事實ガ證明ラ致シテ居ル、此不當ノ起訴ト云
フコトニ對シマシテ、即チ公判處分ヨリハ、檢事處分ノ方ニ
人民ノ考ガ公平カナデナイ弊ガアル、斯ウ云フ事ヲ申上ゲタ、議
論ハドウヤウニモ立ツノデゴザイマスルガ、不當ノ起訴ニ
依ッテ、成程陪審制度ガ確立サレマシタカラ、日ナラズ罪ナ
ケレバ無罪ノ判決ヲ受ケルデゴザイマセウ、併ナガラ一度
ビ起訴致サレマシタト云フト、其被告人ニナツタ者ハ、先程モ
申シマシタ如ク、事實ニ於キマシテ財産上精神上非常ナル
損害デアリマシテ、人ニ依リ身分ニ依リマシテハ、再ビ社會
ニ立ツコトハ出來ヌ、之ヲ私ハ主トシテ憂ヘテ居ルノデア
リマス、此弊ヲ矯メルトコトガ、寧ロ起訴陪審ガ必要デナカラ
ウカ、必ズシモ英吉利法ニ模倣セヨト申スノデアリマセ
ヌ、日本ノ現在ニ徴シテ、裁判ヨリ檢事ノ處分ニ不平ノ聲ガ
アル、此點ヲ矯メルトハ極メテ緊切デハナカラウカ、大臣御
演說ノ如ク國情ニ即シテ申上ゲルノデアリマス、是レ以上
ハ意見ノ相違ニナリマスルガ、私ハ今尙ホ左様ナ考ヲ持ッテ
居ルノデアリマス、更ニ起訴陪審ヲ御採リニナラヌ趣旨ガ、
前來御述べニナリマシタ事實デアリト致シマシテ、此點ハ
私ハ他ノ方法ヲ以テ救済ヲ別ニ爲サル司法當局ニ御對策ハ
無イカ、之ヲ一ツ伺ッテ見タイ、新シキ御試ミデゴザイマス
カラ、本法施行後ニ色々ナ方法ヲ以テ、執法職司ハ勿論、有
ユル者ニ普及ナサルニ相違ゴザイマスマイガ、兎モ角モ大

臣御辯明ノ如ク、近ク起訴陪審モ、公判ヲ擴張シテ起訴陪審ニ及ブ意思ハナイト云フコトニナリマス、此心配致シマスル點ヲ何等カノ方法ヲ以テ救済シナケレバナラヌデハナイカ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、即チ此意味ニ於テ無辜ノ民ガ起訴ニ依ッテ被リマシタル損害ヲ救済スル意味ニ於テ、此損害ヲ未然ニ防止スル爲ニ、此檢察ニ對スル關係デゴザイマスルガ、執法職司ニ戒告ノ意味ニ於キマシテ、速ニ免訴無罪者ニ對シテ國家賠償ノ制度ヲ御立ニナル御意思ガ無イト云フコトニナリマス、是ハドウシテモ緊要ナ事デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、私共扱ヒマスル上ニ於キマシテハ、免訴無罪ニナル者ガ多數アル、即チ不當ノ起訴ハ多數アルノデアリマス、是ハ其地位ニ居マセスト痛切ニ感ジナイノデゴザイマセウガ、眞ニ吾々ハ同情ニ堪ヘヌ、現在ニ最近ニモ例ガゴザイマシタル、私ノ地方ニ於キマシテ親殺シノ嫌疑ヲ受ケマシテ、三年半ノ長キ未決ニ繫ガレマシテ、而シテ最近即チ昨年ノ十二月廿日ニ仙臺デ無罪ノ判決ニ相成リマシタル、此被告ノ出獄後ノ狀態ニ付テ、私ハ之ヲ冷靜ニ研究ヲ致シマシタルガ、實ニ非常ナ氣ノ毒ナモノデゴザイマス、三年半ノ間ニ新聞其他ノ宣傳ガ、親殺シト云フ洵ニ忌ハシキ聲ニ充チテ居リマシタルガ爲ニ、社會上ノ位置ハ皆無ニナリ、即チ家ニ離レ、財産ニ離レ、妻子ニマデ離レテ居リマシタル、此妻子ハ青天白日ノ身トナッタ今日、復舊還元スルコトガ出來ナイノデアリマス、世間ノ宣傳ハ實ニ恐ロシイモノデゴザイマス、現在ノ妻子マデモ、現在ハ實ニ恐ニ對シテ、眞ニ親ヲ殺シタルハナカラウカト云フ考ヲ三年半持シテ參リマシタル爲ニ、今日出獄シテモ、元ニ還ラレヌ、凡ソ人事上ニ是程悲惨ナ問題ハ私ハ無イト思ヒマス、本件ハ第一審ニ於テ無罪ニナリ、誤リタル起訴デアアルニ拘ラズ、檢察ガ執著ニモ控訴ヲシ、第二審ニ於テハ死刑ノ判決ヲ受ケタ、ソレヲ上告シテ、破毀トナリ、仙臺ニ於テ吾々ノ希望スルガ如ク無罪ノ判決ヲ受ケタノデゴザイマス、勿論公判陪審ヲ御認メニナッタノデアリ、スカラ、斯ノ如キ事ハゴザイマス、又刑事訴訟法ニ於テ拘留期限ナドヲ制限サレマシタルカ、斯ル事ガ無イトハ思ヒマス、三年半ハ愚カ一年デモ、三箇月デモ、乃至一日ノ拘留ヲ受ケマセヌデモ、起訴ヲサレタト云フコトニ相成リマス、其人ノ名譽ノ回復ト云フコトハ、到底出來ナイノデアリマス、之ヲ未然ニ防止スルノ必要ガアルノミナラズ、將來執法司直ニ當ッテ居ル者ヲ戒告スル方法トシテ、斯様ナ規定ヲ設ケテ、公訴陪審ヲ認メラレト云フコトガ必要デハナイカト考ヘマス、此點ニ關シテ大臣ノ御所見ヲ伺ヒマス

○岡野國務大臣 御答ヲ致シマスルガ、國家ノ官吏方、其職務ヲ行フニ當ッテ他人ニ損害ヲ加ヘタ、其損害ハ必ズシモ財產的ノ損害ノミニ限リマセヌガ、或ハ精神的ノ損害、或ハ財產的ノ損害ヲ與ヘタト云フ場合ニ於テ、之ヲ救済スルノ手段トシテ、豫テ懸案ニナッテ居リ、又學者ノ間ニ議論サレテ居ル問題ガ、國家ガ之ヲ賠償スルカ、或ハ其職務ヲ執ッテ官吏ヲシテ賠償セシメルカト云フ問題デアラウカト思ノデアリマス、固ヨリ官吏ニ對スル所ノ行政上若クハ法律上ノ懲戒ト云フヤウナ制度モ立テ、ハアリマス、此懲戒ヲ施シタルガ爲ニ、決シテ其損害ヲ被ッテ損害者ノ精神的、財產的ノ賠償ヲ爲スニハ足ラヌノデアリマス、ソレガ故ニ結局救済手段トシテ何ガアルカト申セバ、只今黒住君ノ御説ノ通り、賠償ノ義務ト云フコトヨリ外ニ歸スル所ハナカリサウニ思ハレルノデアリマス、御説中ニモアリマシタル通り、裁判關係ニ於テ一タビ檢舉セラレ、而シテ裁判ノ結果無罪トナッタル場合ニ於テハ、其人ノ苦痛ト迷惑トハ甚ダ渺カラザルモノデアルト云フコトハ、是ハ想像ニ餘リアルコトデアリマス、併ナガラハ是ハ唯、司法權ノ運用ニ關スルモノ問題デアハナクシテ、是ハ一般國政上ノ問題デアラウト思フノデアリマス、必ズシモ司法權ノミニ限ラズ、行政權ニ於テモ矢張同様ナ問題ガ起ルノデアリマス、是ガ爲ニ長イ間種々ナル機會ニ於テ、色々ノ委員會ニ於テ、政府部内ニ於テモ度々議論ヲ費シタル問題デアアルノデ、其概要ハ私モ多年ノ間關知シテ居ル所モアルノデアリマス、併ナガラ今日ニ於テ國家或ハ官吏ノ賠償責任ヲ定メルト云フ制度ハ、採用致サレテ居ラヌデアリマス——原則トシテハ採用サレテ居ラヌノデアリマス、殊ニ先日豫算委員會ニ於テモ、分科會ニ於テドナタデアリマシタルカ、國家ノ賠償責任ニ付テ考ヘテ居ルコトガナイカト云フ御尋ガアリマシノ、之ニ對シテ私ハ此起訴或ハ刑事ノ訴追ノ爲ニ、他人ガ損害ヲ被ルト云フコトハ、或ハ精神的ニ或ハ財産的ニ、是ハ洵ニ同情スベキ事柄デアアルコトハ申スマデモ、ナイノデアリマス、殊ニ此司法權ノ效用ニ付テ、若シ常ニ國家ガ賠償セバナラヌ、若クハ官吏方之ヲ賠償セバナラヌト云フヤウナ制度ヲ立テマシテ、果シテ完全ニ此司法權ノ運用ガ出來ルカドウカト云フコトモ、同時ニ考慮セバナラヌ問題デアラウト思ヒマス、成程一面カラ申セバ、起訴スベカラザル者、訴追スベカラザル者ガ檢舉セラレ、或ハ起訴セラレテ、サウシテ結局是ガ無罪デアルト云フコトニナッタ場合ニ於ケルコトヲ考ヘテ見マスレバ、是ハ黒住君ノ御説ノ通りノ結果ヲ來スト思フノデアリマス、併ナガラ又同時ニ司法權ガ萎靡シテ振ハヌト云フヤウナ結果ヲ來スコトニナレバ、成程個人々々ニ付テハ何等ノ損害ヲ被ルコトハアリマセヌケレドモ、併ナガラ一般國民トシテハ、是ハ矢張中サバ消極的ノ人權蹂躪ト

デモ申シマス、サウ云フヤウナ結果ヲ來ス處方確ニアラウト私ハ思フノデアリマス、固ヨリ何レノ方面カラ觀マシテモ、司法權ノ適當ナル運用上カラ、ドウシテモシナケレバナラヌノデアリマス、ケレドモ、若モ常ニ誤リタル場合ニ於テ、若クハ裁判ノ結果ニ於テ、檢察ノ起訴シタル場合ニ於テ、果シテシテ場合ニ於テ、常ニ之ヲ賠償シナケレバナラヌト云フコトニナッタナラバ、司法權ハ自ら或ル程度ニ於テ萎靡セザルヲ得ナイコトニナルノデアリマス、是ガ果シテ公益ノ爲メ、公安ヲ維持シナケレバ、適當デアラウカト云フコトハ、餘程考慮シナケレバ、如何ナル考ヲ持ッテ居ルコト申セバ、只今ニ於テハ大ニ考慮スベキ問題デアアル云フ程度ニアルノデアリマシテ、尙ホ是ハ將來ニ於テ餘程攻究ヲ要スル問題デアアル、只今ノ所ハ必ズ賠償責任制度ヲ立テルト云フ確定的意見ハ持ッテ居ラヌノデアリマス、將來ノ研究ニ俟タネバナラヌト考ヘテ居ルノデアリマス

○鶴澤委員長 ソレデハ是デ休憩シマシテ午後二時カラ開クコトニ致シマス

零時二十一分休憩ノ儘散會